

バン格拉デッシュのマラカールさん講演会

バン格拉デッシュに寺子屋（小学校）をおくる運動を進めているACEF（アジアキリスト教教育基金）と協力関係にあるバン格拉デッシュのBDP（Basic Development Patners）のディレクターであるアルバート・マラカールさんが5月21日（月）に遺愛に来られて、全校生徒に講演をして下さいました。

日本基督教団函館教会の松本牧師の礼拝メッセージのあと、マラカールさんが登壇し、パワーポイントを用いながらバン格拉デッシュと日本との違いを具体的に英語で説明しました。（通訳をACEF事務局の前田恭子さんが担当して下さいました。感謝です。）

国の面積は日本の方が3倍大きいのですが、人口はバン格拉デッシュの方が3000万人以上多いこと、GDPは日本がバン格拉デッシュの60倍、電器消費量も60倍、石油消費量は56倍だそうです。医者は日本が国民476人に1人に対し、バン格拉デッシュは4000人に1人、識字率は日本が99%に対し、バン格拉デッシュは60%です。日本の高校進学率は97%に対し、バン格拉デッシュ通訳は3.5%、大学進学率は1%だそうです。バン格拉デッシュの人々が、少しでも人間らしい生活ができるようになるためには教育が大事なので、ぜひ寺子屋づくりに協力してほしいとのことでした。バン格拉デッシュでは10円で寺子屋小学校の1人が1日勉強でき、7000円で1クラス（30名）を1ヶ月維持でき、100万円で小学校1校建設できるそうです。

昨年8月末に遺愛に来て講演して下さいましたアフリカ・ケニア在住の医師公文和子さんもケニアの人々が自信をもって国作りをしていくには、とにかく教育が重要であると強調していました。ちなみに公文さんは北海道大学医学部の学生時代に、このACEFのスタディツアーでバン格拉デッシュを訪れてから生き方が変わり、今ケニアでとても良いお働きをなさっています。

世界の資源に限られているなか日本を含めた先進諸国は今までのような豊かさを享受できません。原発事故の影響で電力不足が予想されるこの夏、悲劇を繰り返さないために私達の生活の仕方が問われてきます。生徒達はしっかりと顔をあげてマラカールさんの講演を聞いていました。この講演から何かを感じとってくれればと願います。

なお、ACEFの理事長をしている船戸良隆先生は2001年の修養会に、今回も一緒に来て下さった井上儀子（ACEF事務局秘書）先生は2006年の修養会に講師として来て下さいました。



2012年5月23日（水）